

## 国債が貨幣と袂を別つ時

齊藤 誠

### 〈要旨〉

本論文では、中央銀行による国債管理政策について、貨幣と国債の代替性が高まり、国債を中央銀行債務に置き換える政策と狭く定義する。日本銀行が19世紀末以降に狭義の国債管理政策を展開したのは、①1937年から1945年までの戦時経済期と、②1995年以降の超低金利環境においてであった。本稿では、②における国債管理政策がどのような終息を迎えるのかを、①の国債管理政策が破綻した1940年代後半の経験を踏まえて考察する。特に、国債管理政策の終焉に伴う物価水準や名目金利の混乱は、財政再建へのコミットメントを含めて適切に対応すれば、一時的な水準訂正にとどまることを明らかにする。

(名古屋大学)